



千波湖
清らかな水と木々の緑に囲まれたひょうたん形の美しい湖。春には桜が水面を彩り、白鳥の群が優雅に遊ぶ。



納豆なんでも展示館 [水戸天狗納豆(株)笹沼五郎商店]
納豆の起源や納豆製作の歴史、水戸納豆が全国的に有名になったわけなど、様々な歴史を知ることができる。
TEL 029-225-2121 水戸市三の丸3-4-30 営業時間 9:00~18:00
<http://www.tengunatto.jp/index.html>



水戸市100周年のシンボルタワー



芝居のリハーサルをする若者たち

水戸芸術館
音楽、演劇、現代美術を、幼児から高齢者まで楽しめるのはもちろん、地域文化はもとより、国際的視野にたった芸術文化の交流を行うことで、市民の文化意識の向上と日本の芸術文化の振興に貢献している。

TEL 029-227-8111 水戸市五軒町1-6-8 開館時間 9:30~18:00
月曜定休 (休日の場合翌日)



広場の一角にある噴水で戯れる子供たち

水戸界隈
まち歩き案内



姿が整えられた老松の向こうに千波湖がひろがる

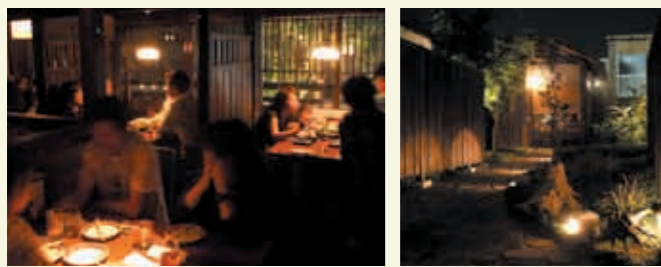
借楽園

金沢の兼六園、岡山の後楽園と並ぶ日本三名園のひとつ。藩主ひとりの庭ではなく、領内の民と偕(とも)に楽しむという意から名付けられている。

TEL 029-244-5454 水戸市見川1-1251
開館時間 24時間
(借楽園本園及び歴史館の区域を除く)



好文亭から眺める田園風景



常陸国 穴とら屋

霞ヶ浦産フランス鴨を用いた鴨鍋や鴨すき焼き、常陸秋そば等、食事と豊富なお酒を楽しむお店。

TEL 029-221-3529 水戸市泉町2-3-15
営業時間 17:00~25:00
日曜定休 (祝前日の場合は営業 翌日代休)
<http://www.anata-ya.com/>

水戸名産 梅 にちなんだ銘菓をご紹介します



梅ふくさ(亀じりし)
赤シソの葉に白あんを入れ、羽二重餅でふんわり包み、気品ある梅の香りを表現。



水戸の梅(水戸井熊總本家)
求肥(ぎゅうひ)で包んだ白あんを、さらに蜜漬けにした赤シソの葉で包んだ逸品。



slow style cafe 金沢屋

オーガニックフードやアロマ用品などが並ぶ雑貨スペースの奥に、ゆったりとした空気が流れるカフェがあり、こだわりの素材をいかし、油や砂糖を控えた身体にやさしいランチやスイーツが楽しめる。

TEL 029-233-7890 水戸市泉町2-3-5 営業時間 [平日] 10:00~19:00 [土日祭] 11:00~19:00
<http://www.kanazaway.co.jp/index.html>



黒羽通り(上)と大工町界隈(右)
昔からの繁華街で、懐かしい風景と新しい風景が交錯する。



好文亭(借楽園内)

梅の別名 好文木に由来した名前を持つ建物で、藩主が好んで通ったとされている。3階の楽寿楼からは千波湖が一望できる。



好文亭を写生する子供たち



弘道館 正庁



日本最大の藩校 弘道館
水戸城跡に隣り合い、白壁と黒瓦で構成された、凛とした佇まいが、観光客をひきつける。

TEL 029-231-4725 水戸市三の丸1-6-29
弘道館公園 開園時間 24時間
弘道館 9:00~17:00(2/20~9/30)
9:00~16:30(10/1~2/19)
※12/29~31 休



水戸市立三の丸小学校(医学館跡)
白と黒の建物が、藩校 弘道館のイメージを伝える。



水戸駅北口
ペデストリアンデッキの彫像が風景を引き締める。

後の將軍、徳川慶喜が**大政奉還**したあと謹慎した部屋も残され、幕末ファンにとっても見逃せないスポットとなっています。

日本三名園のひとつとされる借楽園もまた、水戸藩の精神が色濃く宿った場所です。9代藩主徳川斉昭が造園し、広く庶民とともに楽しむとしたことから名付けられた借楽園は、藩主のみならずひろく文人墨客が集い、梅はもろろん、つつじ、萩など四季折々の風情を愛でたといえます。園内に建つ好文亭も、やはり弘道館と同じように、目を奪うような華やかさはありませんが、その質実さと清廉さとともに、近くの千波湖の水辺も見晴らせ、気宇壮大な水戸藩の覇気を感じることが出来ます。

市内にはこのほか、県立や市立の博物館、徳川博物館など水戸藩の貴重な資料と出会う施設が数多くありますが、水戸の進取の気性を今に受け継ぐ場所としては、市制100周年記念のタワーがシンボルとなっている水戸芸術館の存在を忘れることはできません。音楽では全国に先駆けてホール専属の室内管弦楽団を組織し、美術では先端的な現代美術をいち早く紹介し、国内の美術館の中でも独自の地位を得てきました。また、現代の水戸の顔となったこの水戸芸術館を中心に開催される数多くのアートイベントや音楽イベント



水戸のシンボル
水戸黄門 助さん 格さん像(水戸駅北口)

CHECK!

水戸駅南口地区の事業について17ページより特集しています。

は、多くの市民を巻き込みながら、新しい交流の場としてすっかり定着しています。

多くの若者が出入りするようになり、水戸の街にも新しい風が吹き込むようになりました。裏通りにちよつと入ってみれば、古い民家を改築したレストランやカフェがあちこちに生まれ、ややもすると生真面目に見えがちな街に、わくわくするようなシーンが展開されています。黒羽通りや昔からの歓楽街大工町の界隈を散歩してみると、昔懐かしい風景と新しい街の風景が自然に交錯しているのがわかります。

思えば黄門さまは、日本で初めてラーメンや餃子、チーズ、牛乳酒などを食し、オランダ製の靴下を履いていたといわれるほど好奇心旺盛な人でした。開藩400年を迎えたこの由緒正しい城下町は、変化に対しても食欲である、というのをもまた水戸の知られざる特徴だといえるかも知れません。